

カラシ菜・タカナのカルテック施肥例 (10アール当り)

時期	方法	資材	
地力作り	なるべく早い時期に (播種・定植までに 1ヵ月以上おく)	ラクトバチルス 600グラム … 保水性よく、安定した土にします 堆厩肥 1トン以上 硫安 60kg (40~80kg) ※堆厩肥が足りない場合は 硫酸カリ 20kg 追加 ※もし通常の複合肥料なら、チツソ成分 12kg前後	
整地時	整地時に散布 ※カラシ菜・タカナのチツソ吸収量は意外に少なく、3トンで10kg程。多肥にしない事。	畑のカルシウム 60kg ※ <u>土壌pH:6.0~6.5</u> となるように調節して下さい。 <u>栽培中にpH:5.5以下になると、根が働かず、生長が衰弱し、寒害を受けやすくなる現象が顕著です。</u>	
〈タカナ〉 育苗 の場合	苗床への施肥	平米当り、堆厩肥 1kg, 硫安 50g, 畑のカルシウム 100g,	
	散水時に使用 (4~7日ごと交互)	濃縮酵素液 1000倍 … 根を強く、葉の主脈を太く、生長促進 カルテックCa液状 1000倍 … 葉を厚くし、充実させ、徒長させない ※特に播種後、本葉展開頃の間引き時、採苗前は 酵素 でタップリ灌水 ※水分を切らさない事、断根しない事、ウイルス病苗を持たない事	
定植時 播種時	移植・播種前後の 灌水の時に	濃縮酵素液 500倍液 … 初期の根張り促進 《必須》	
初期 播種・定植 後1ヵ月間	葉面散布で調節 (7~15日ごとに) ※特に天候不順の時は灌水を。 ※ 2リットルずつ交互灌水が抜群	濃縮酵素液 500倍液 葉面散布 … 根・生長の促進 ※前半は特に <u>チツソ肥料よりも根の力が大事です。</u> ※特に生長が弱い場合、根が張らない場合は 酵素液 の灌水。 原液3~10リットルを灌水 (300倍前後に希釈して) ※もし(万一)、チツソ肥料が切れている場合は、 アミノ酸液 を500倍で 葉面散布、または 3~10リットルを灌水。 カルテックCa液状 500倍 葉面散布…生育を引締め、葉を厚くします	
〈秋蒔き 冬春穫り〉 追肥	秋蒔き普通栽培 は10~11月。 越冬栽培では 2月頃。 ※莖葉の肥大期。 土の水分, pH, EC、根の強さに注意して下さい。	硫安 40kg 畑のカルシウム 30kg	二つを同時に施用。生育状態や土壌EC, pHによって増減して下さい
		※越冬栽培(晩春穫り)では、上記の1ヵ月後(3月)に、2回目の追肥として、硫安 40kgを施します。この時も、畑のカルシウム30kg加用。 ※必ず根の状態を見て下さい。 <u>カルシウム・ホウ素の欠乏症も、根を直さないと 根本的解決になりません。根が悪くなる前に 酵素液の灌水。</u> ※液肥で施用する場合は、 アミノ酸液 5~10リットル, カルテックCa液状 2~4リットルを、7~15日ごとに 交互に灌水して下さい。	
生育の 全期間 ~ 仕上げ	収穫前20日頃、 葉面散布(灌水) ※カキ葉収穫なら、 その都度、 酵素	根から生育量を増やし、肉を柔軟にするには、 濃縮酵素液 500倍 肥切れの場合や、葉に厚み・重みをつけるには、 アミノ酸液 500倍 チツソ過多・徒長を引締めるには、 カルテックCa液状 500倍 ※漬物用でも、充実・重み(重量の増加)・旨味を重視しましょう。	

	を	
--	---	--

上記は一例です。品種や作型が多岐ですので、必ず地域の施肥設計や栽培暦を見て加減して下さい。

〈葉ガラシ菜〉……(葉細く欠刻多い) 耐寒性で、東日本でも栽培。寒地は春蒔き。「山塩菜」は九州で周年。

〈タカナ〉……葉色はさまざま。「かつお菜」は調理用。通常は、秋撒き冬穫り。

〈多肉性タカナ〉…(特に葉が広く厚い。高温性。肥沃土向き)「三池タカナ」,「山形タカナ」等。秋撒き春穫り。

〈茎用タカナ〉……中国品種。「大心菜」,「ツァー菜」など。